

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

移転した吹田市民病院 患者支援センターを開設



吹田市民病院の現在の外観写真。JR岸辺駅から連絡道路で直結している。

市立吹田市民病院は、昨年12月にJR岸辺駅前に位置する北大阪健康医療都市(健都)への移転に伴い「患者支援センター」を開設した。これは入院前に、安心して入院できるように適切な入院準備のための支援を行い、退院後も安心して生活できるように、制度の活用、施設入所や転院に関する相談を社会福祉士や看護師など、多職種の職員が連携して支援している。病気に対することや介護、がん疾患に関する

疑問や悩みごとの相談窓口にもなっている。2019年7月に移転する国立循環器病研究センターとの医療連携を行い、地域医療の質の向上が期待される。

健都のアクセス向上 亥子谷から直結が道路開通

JR岸辺駅前に広がる北大阪健康医療都市(健都)のアクセスが向上した。亥子谷から国立

循環器病センター(=国循)に直結する「都市計画道路岸部中千里丘線」が2月7日に開通した。

同道路は、吹田市岸部中5丁目から摂津市千里丘新町までの約550メートル。府道豊中摂津線と大阪高槻京都線(=産業道路)とに接続している。

市立吹田市民病院と今年7月に移転する国循への緊急車両の通行を確保と、岸部中地区の交通の分散化を図る。



写真はびっくりドンキーから健都に向かって撮影。渋滞しやすい産業道路を横切り、約550mで国循に到着する。

豊中市在住の小説家が児童文学賞を受賞 「ペンギンは空を見上げる」



岡山市の文学賞「第34回坪田譲治文学賞」に、豊中市在住の小説家、八重野統摩(やえのとうま)さんの「ペンギンは空を見上げる」(東京創元社)が選ばれた。同賞は児童文学の第一人者、故坪田譲治氏の功績を称え、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」を対象とするもの。受賞は、毎年1年間に刊行された小説や文学作品から選ばれる。選考委員は阿川佐和子、五木寛之、川村湊、中脇初枝、西本鶏介、森詠、森絵都(敬称略)。



「受賞後のプレッシャーは感じますが、今とても楽しく小説を書いています。子どもたちも、夢や楽しいことがあれば、やりたいことをやってほしい」と八重野さん。

今までにないタイプの作品

受賞作は、NASA(アメリカ航空宇宙局)のエンジニアを志す小学6年生、ハルの成長物語。意地っ張りな性格からクラスで孤立しながらも、自作の風船ロケットで宇宙撮影を目指し奮闘する姿と、転校生の金髪の少女イリスとの交流を描いた。ジ

ュヴナイル・テイスト(少年少女向け)であるもののミステリ要素もあり、これまでの坪田譲治文学賞にはない作品。選考委員の中脇さんは、「選考会では意見が大きく分かれた。確かに気になるころはあったが、それを上回る魅力がある。未来に希望を抱かせる作品で、若い書き手のこれからの可能性に期待したい」と語った。

夢に向かう姿に胸打つ

作者の八重野さんは、2012年にデビューした新鋭の小説家。大学時代から小説を書き始め、在学中はほぼ4年間執筆と投稿を繰り返していたという。卒業前に電撃小説大賞へ投稿した作品が編集者の目にとまり、翌年「還りの会で言ってやる」で小説家デビ

ュー。本受賞作は5作目の小説となる。構想は早くにできあがっていたものの、小説の軸となる「風船ロケット(スペースバルーン)」の描写が、電波法や航空法に抵触しないようまとめるのが大変だったという。今回の受賞について、「受賞はないと思っていたので驚きました。大人、子ども問わず、ハルが夢に向かって前向きに努力する姿を見ていただけたら」と話した。

2021年4月オープン予定 箕面船場阪大前駅のまちづくり

2020年度中(2020年4月~2021年3月)に開業予定の北大阪急行の二つの新駅。その新駅の一つ「箕面船場阪大前駅」の周辺では、大阪大学箕面キャンパスや複合公共施設が(2021年4月にオープン予定)新設されるなど、船場のまちが様変わりしそうだ。箕面市では「文化とビジネスの拠点」として位置づけているこの新駅。歩行者デッキが新設されるなどまち全体の利便性の向上も期待できる。



地上6階、地下1階の複合公共施設
文化ホール(大ホール1401席、小ホール300席)、図書館(蔵書70万冊以上)、生涯学習センター、駐車場が一体となった施設。2021年4月にオープンをめざしている。

